

フレッシューズのための 社会人&エンジニア入門

キラリと光るエンジニア人生の歩み方

館 伸幸

ここでは、仕事に取り組むにあたって必要な考え方や、楽しいエンジニア生活を送るために身に付けておきたい資質などについて解説します。決められたことをこなす「作業者」になるか、問題を解決できる「技術者」になるかは、皆さん自身の行動にかかっています。

(筆者)

この春に就職された皆さん、おめでとうございます。あるいはもう2年、3年と経験を積んでおられる方の中には、日々のルーチン・ワークに忙殺されている方も多いのではないかと思います。縁あって入ったこの世界で働いていくことについて、ちょっと考えてみませんか。

最初に、皆さんは技術の仕事に就「職」したのであって、就社したのではないという認識を持ってください(図1)。



図1
我こそは天下無敵のエンジニア!

エンジニアという職に就いたからには、そのスキルを発揮し続けるからこそ、職場での存在価値があるのです。

「与えられた仕事をうまくこなすように頑張ります」などと発言している人はいませんか? 「与えられた」は受け身の言葉です。「こなす」は、単に処理したり終わらせたりするという言葉です。仕事とは、会社に行けば自然に存在しているもので、それを終わらせることが仕事の目的なのでしょう。仮にそうであったとして、それはあなたにとって楽しいエンジニア生活でしょうか?

今の職種を目指して就職した方も、「いや実は就社だったかも」という方も、きっかけは何であれ、せっかく技術職という特異な仕事に就くことができています。ぜひ技術の仕事でプロとして長く、楽しく、活躍していきましょう。

1 社会人として大切な四つの考え方

エンジニアにとって技術力は重要です。しかし、それ以前にまず、社会人として自律できていることが大切です。そのために必要な四つの考え方を以下に示します。

● 受け身からの脱却

図2は一般的な就学パターンです。多くの人が16年の長きにわたり、「先生がしゃべったことをノートに取る」という受け身の姿勢をたたき込まれています^{注1}。このような環

注1: 高専や大学院に進学した場合は年数が異なる。また、優れた師と出会うという幸運に恵まれた方に関しては、この限りではないだろう。

KeyWord

組み込みシステム, エンジニア, 自責, 他責, 試験型人間, 論理的な考え方, 就職, 自分2.0, 組み込みソフトウェア

境で育った人が口にしやすいのが、

- 習ってないので、できません
 - やったことがないので、分かりません
- といった言葉です。

仕事とは何でしょうか。いろいろな意見があると思いますが、一つの考え方は「問題を解決すること」です。例えば、資金が足りないという問題に対して、銀行という仕事があります。病気という問題に対して、医療という仕事があります。

そして、私たちの技術の仕事、とりわけ開発というのは「世の中にないものを作って問題を解決すること」なのです。世の中にないものを作る以上は、習っていない、やったことがないのは当たり前です。それらを理由にするのは、単に自分ができないことを言い訳しているにすぎません。社会ではこのような言い訳は通用しないと、肝に銘じるべきです。

できない言い訳を挙げるのは、とても簡単です。ツールがないのでできません、誰それが協力してくれないのでできません、仕様が不明確なのでできません、…。そうではなく、「やるためにはどうしたらよいのか」を考えることが大切です。方法が分かれば、環境が整えば、後はやるだけです。やるための方策を考える人は「技術者」で、決められたことをやるだけの人は「作業者」です。さて、あなたはどちらの人になりたいでしょうか。

● 自責と他責

自責とは「問題の原因を自分側に求めること」、他責とは「問題の原因を他人(自分以外)に求めること」です。これ

は、物理的な問題の所在ではなく、解決にあたる時の心構えとして考えてください。

問題を解決するには、原因に対して対策を施す必要があります。他責の場合、原因は他人にあるので、他人が変わらない限り、他人を変えない限り、問題は解決しません。つまり、ある問題に対して他責という言葉を使った瞬間に、その問題は「自分では解決できない」と言ったこととなります。仕事とは問題を解決することなので、それは「私にはこの仕事はできません」宣言でもあるのです。

例えば学生時代、「教科書が悪いから」とか「先生の教え方が悪いから」といった発言はしなかったでしょうか。それを真実とした場合、先生や教科書が変わらない限り、問題(成績が上がらないなど)は解決しないことになります。仕事でも、先に挙げた例の「仕様が不明確」などは、一見、不可抗力のように思えます。だからといって、上流部門や顧客のせいにしておいて、問題は解決するのでしょうか。どういところが不明確なのか、あるいは明確にできるように自分はどのような提案を行うべき(だった)か、という発想が大切です。これが、問題に対する自責という考え方です。

● 試験型人間からの脱却

以前、どこかで「試験型人間」の条件というのを見たことがあります。それは、

- 必ず一つの答えがある問題に慣れている
- 簡単な問題から解くと点数が良い
- 「教科書通りの答えを書かないと×になる」と思っているというものです。いくつかの業務経験を経れば、仕事の現

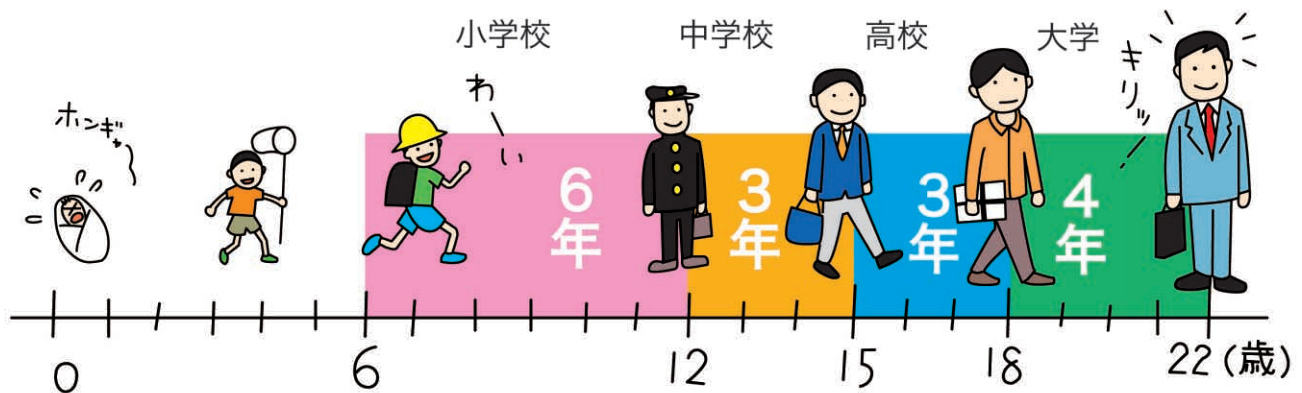


図2 一般的な就学パターン